

ともにいのちかがやく世界へ

大悲

元本願寺派総長
題字 蓮 清 典 師

(第64号)
令和元年. 9. 1
(2019)

昌 平 寺
昌平寺門信徒会

〒359-0036 所沢市旭町22-8 電話 (04) 2994-8887



武蔵野墓苑無量寿堂・阿弥陀像

令和元年

昌平寺行事御案内

- 一 秋季彼岸会 9月23日(祝・月)
武蔵野大学学長 西本照真師
勤行 午後2時〜3時
法話 午後3時〜4時
- 二 開基住職小畑俊哲忌
11月2日(土)
勤行・法話
午後2時〜3時30分
- 三 報恩講連夜 11月30日(土)
午後6時〜
- 四 報恩講 12月1日(日)
武蔵野大学名誉教授
山崎龍明師
勤行 午後1時〜2時
法話 午後2時〜3時
- 五 成道会の集い
12月7日(土)
音楽礼拝・法話
午後6時〜
歓談・懇親会(軽食あり)
午後7時〜

春季彼岸会法話

生きることは労苦である

駒沢大学名誉教授 田上太秀



まれること、生まれたら衰え老いること、そして生身にはどこかに故障が生じ病むこと、そして生まれたものはかならず死ぬこと、の四つです。

生き物には腹から生まれるもの、卵から生まれるもの、湿気のあるところから生まれるもの、そして突然に化けて現れるものの四つがあります。人などの哺乳動物は腹から生まれた生き物ですね。鳥や魚は卵から生まれます。蚊や蛆虫などは湿気のあるところから生まれます。神や地獄の獄卒などは化けて現れた生き物と考えられています。

生き物はみな生まれたら避けることができないことが四つあるとお経で説かれています。それは自分の意思とは関係なく生

「人生は苦なり」と説かれたのです。

生まれたら生き物は命を保つために食べなければなりません。食べるためにははたらかねばなりません。はたらくためにさまざまな人の助けを必要とします。はたらくと肉体的疲労や精神的な悩みが生じます。労働、労苦ということばはそれを表しています。

大事なことは労（勞）です。これは力強く、激しく燃え盛りたいまつを意味するといわれ、労とははたらく、努めるなどの意味があり、骨折し損もあり、同時に種々の経験を積むという意味も含まれているようです。

ここから共存生活の中で相手をいたわる、あつなどの読みが知られます。相手をいたわる、あつとさめる心が生まれます。労苦とか労働ということばは、労の意味が重みを持つています。

労苦の人生では、人は四つのは心構えをもつこととお釈迦様は

説かれました。

与える心をもつこと。
物だけでなく、知識も力も、心も与える。

やさしいことはを語ること。
健康を氣遣うこと、褒めること、ようこそと語りかける。

ただ利他を心掛けること。
ひたすら他のためになることをする。

おごりの心をもたぬこと。
生まれや身分や職業や肩書きや学歴を自慢しない。

以上の四つをつねに心掛けて生きるようにと説かれました。



門信徒会総会法話

お浄土の味わい

西法寺副住職・浄土真宗本願寺派布教使 園淵和貴



私たちの仰ぐ阿弥陀様という仏様は、名号摂化の仏様。お悟りの世界から「南無阿弥陀仏」の名号となつて、私の所に向向いてくださつて、今、私とご一緒くださる仏さまです。

そして、私の人生の最後にある「死」について、おっしゃいます。

「その人生最後の大事な、どうか私の仕事とさせてくれ。あなたの命は、まちがわさんよ。必ずお浄土へ連れていくから、そのことを聞いておいてくれ」。その仰せを、私のお念仏にお聞かせいただきます。

普段「死んだら終わり」とお

っしゃる人であっても、大きな病になつた時や、親しいお方が亡くなつた時には、やつぱり「死んだらどうなるのか」と、考えるのではないのでしょうか。

ですが、私たちはお互い、未だ死を経験したことがありません。経験したことの無い者同士が集まつて話し合つても、あまりいい答えは出そうにありません。

そのなかで、「死んだら終わりだ」という言葉は、不安の叫びとも言えるのかもしれませんが。

私たちは、長く生きることが許されたなら、生きる為の知恵知識は、身につける事が出来るかもしれません。

ですが、いくら長生きしようとも、死を経験できませんから、その現実突き当たつた時、その事に触れていける言葉を持ちません。どれほど長生きした人

であつても、死を前にした時には、赤ちゃんと同じ。ただただ言葉を失つて、涙を流し、立ちすくむことしかできないのかも知れません。死に対する言葉は、人間の側からは出てきません。

ですが、そのことを十分ご存じの阿弥陀様は、その我々をご覧になつて、「愚か者よ、賢くなれ」とはおっしゃいませんでした。

「あなたが泣くことしかできないなら、そのままのあなたを救える仏に、私が成ろう」と立ち上がり、南無阿弥陀仏の仏さまとなり、今ご一緒くださいます。

そして、「命終つたらどうなるのか。その解決は、私に任せてほしい」とおっしゃつて下さいます。

お念仏いただく我々にとつては、死んだらどうなるのかという事は、もはや私の仕事ではなく、阿弥陀様の仕事になつていくつていうんです。

私の命に満入している名号には、お浄土へ生まれ、仏さまに

なるのに必要な、知恵と慈悲の功德が欠け目なく具えられてあります。その値打ちがあるから、どのようなご縁で命終えても、その瞬間、お浄土へ生まれる命に、もうなつてしまつていてつて言うんです。

金曜日が終わると、土曜日になる。幼稚園が終わると、小学生になる。そこに私の思いや行為が関与するかとというと、一分たりとも関与しません。そうなつてしまつています。

私の命の終わりでも、同じことが言えます。

娑婆の命の終わりと、お浄土の命の始まりが、地続きでつながつています。

そこに、私の行為が関与して行き先が決まつたり変わつたりするのではなく、命終わればお浄土に生まれゆく命に、もうなつてしまつています。それほどの値打ちが、もうここに届けられてある。それが、南無阿弥陀仏のお名号です、とお聞かせいただきます。

本堂預骨室孟蘭盆会法話

『仏さま(亡き人)はどこに?』

く大悲無倦常照我く

浄土真宗本願寺派布教使 赤川 浄友



おとしの孟蘭盆会法要、去年の門信徒総会に続き、三回目のご縁です。赤川浄友です。今回は、二つお話しさせていただきました。一つは、お寺の存在意義であり、皆さんの心得で、次のようにお話ししました。

「門信徒の心得」

(赤川バージョン)

お寺は生きている内に来る所
死んでから来ても遅い
お経は生きている人のための
教え 死んでから聞いても遅

い お釈迦さまや親鸞さまは死んでしまった人の為には一言も教えを説いていない 生きている内にお寺へ参りましょう

真宗の教えは、お聴聞(聞法)に尽きます。ご法話を聞きましよう!

そして、もう一つは、半年前の私の築地本願寺テレフォン法話の内容です。

タイトル「仏さまは(亡き人)はどこに?」です。

仏さまはどこにいらっしやるのでしょうか?二つの考え方があります。一つは、私たち凡夫が往生させていただく阿弥陀さまの世界「お浄土」です。それを「往相廻向」といいます。そ

してもう一つは、迷いのこの世に仏さまとして戻って来られるのです。その用きを「還相廻向」といい、二つの場所、考え方がす。(中略)つまり、仏さまは「往相」としてのお浄土「俱会一処」「一蓮托生」の世界で、待つていてくださるのであり、もう一つは、「千の風」の歌のようにいつも私のそばで「私はここに」「気付よ」「目覚めよ」「身の程知れよ」と用いて下さっているという二つの考え方です。お正信偈には、「大悲無倦常照我」と親鸞聖人はお示しです。阿弥陀さまは無量の光の仏さまであり、いわば星や太陽のようにいつもこの私を照らしてくださっているのです。このように、仏さまの場所は、人生の旅路のふるさと「お浄土」と、「いつもそばにいて下さる」という二つの考え方です。

最後に、童謡『夕焼け小焼け』で味わってみましょう。この歌の一番は「夕焼け小焼けで 日

が暮れて」「お手手つないでみな帰ろう」と、まさに「往相」としての人生の旅路の還る家、ふるさとを表しているのです。そして二番は、「子供が帰った後からは 円い大きな お月さま」「空にはきらきら金の星」と「還相」としての言わば「千の風」であり、常にこの私を照らして、いつもそばにいて下さるのだと、この歌を私は味わっています。(2018年12月21日〜2019年1月10日築地本願寺テレフォン法話「赤川担当」)

人生の長さで考えれば、帰るおうち、ふるさと。毎日の単位で言えば、千の風のように、いつもそばにいてくださる。仏さま(亡き人)の場所は、そういう考え方です。皆さん、お寺に参りましょう!

築地本願寺テレフォン法話
03(3541)0282 &
0294

第二十三回昌平寺門信徒会 定期総会開催

年号が平成から令和に替わって第一回目（通算二十三回目）の定期総会が六月二日（日）に開催されました。

西法寺副住職本願寺派布教使・園淵和貴師より「お浄土の味わい」と題してご法話を戴き十五時から総会に入りました。

総会では会長の挨拶に引き続き関原議長の下、平成三十年度事業報告・会計報告、令和元年の事業計画・予算の報告があり慎重審議の上承認されました。

会長挨拶では、昨年度は会員減少を食い止めるために、お寺と協力して会員拡大に取り組むこととしましたが、顕著な効果は見られませんでした。しかしここ三年の減少幅は少し落ち落ちてきています。これからも会員の皆様のご指導ご協力をお願いします。

会計では特別積立金の制度は

昨年度で廃しましたが、一般会計の積立金として続けられています。これの取り崩しについて特段の取り決めがありませんので、今年度中に細則を作り来年の総会でご紹介いたします。

今回、長年監査役をお願いしておりました嶋津正隆氏が退任され井上正夫氏が新任されました。嶋津氏は平成十一年第四回総会で就任され、以来二十年間監査の仕事をお願いして参りました。長い間有り難うございました。これからも息災で過ごしたいにられますことを祈っております。会計監査に関しては、従来通り磯野日出夫氏と新たに井上正夫氏にご指導いただくこととなります。

その他報告事項として定例会話は七、八、十二、一月を除く第三火曜日十三時から、茶話会を十四時から一時間としております。多くの方にご参加をお待ちしております。なお、定例会話会のない月は書写の会を十三時から開いています。

昌平寺開基住職

小畑俊哲忌法要

開基住職小畑俊哲忌法要を昌平寺本堂において謹んで厳修いたします。

令和元年十一月二日（土）

一、午後二時より勤行

一、続いてお話

皆様方共々にご参拝いただきますよう、お念じ申し上げます。尚、本法要、ご参拝に際して、ご香典、献花、ご供物等一切固くご辞退申し上げます。合掌

昌平寺

『これが精進料理!!』

俊哲忌法要の後、フレンチ料理のシェフをお招きし、「昌平寺・精進料理をいただく会」を開催いたします。

とても肉、魚が入ってないとは思えない精進料理フレンチパージョンを飲み物と、会話を楽しみながらご堪能ください。

一、開催日時

令和元年十一月二日（土）

十六時～十八時

二、会費 四千元（含む飲物代）

三、人数 三十人限定

四、受付期間 九月一日より

九月三十日まで 先着順

五、申し込み 昌平寺事務所

九時～十七時 時間厳守

電話 04(2994)8887

お迎えするシェフ、折橋大貴師は、一九八九年箱根町生まれ。駒沢大学仏教学部仏教学科卒業。総持寺にて三年半の修行を終えた後に、調理師免許を取得。現在自坊の箱根宮ノ下の四百年の古刹、養食山常泉寺（曹洞宗）副住職を務める傍ら、オーベルジュ「グリーンヒルズ草庵」のフレンチシェフとしても腕を振るわれておられます。常泉寺では「朝粥の会」を毎月一日、朝七時から行われています。



ゆつくりウオーキング
あやめより美しい花々

真辺 純 憲



大善院

皆さん、コメディアンの「志村けん」をご存知かと思えます。「馬鹿殿様」シリーズで「アイーン」のギャグを連発し、茶の間を賑わしておりますが、彼は「東村山市」の出身で、彼のおかげで「東村山市」は全国に知られるようになった、と云われております。又、「東村山」という地名の誕生は、明治二十二年に野口村や南秋津など旧五村が合併して「東村山」となり、



大善院 三十六童子像

村山と呼ばれた狭山丘陵南側の東に位置していたことなどが由来とされているそうです。尚、同市の公式キャラクターは「ひがっしー」と呼ばれています。ところで、去る六月八日に恒例の「ウォーキング」が実施されました。東村山近郊を探索する旅路でした。最初に訪れたのは「大善院」で、ちょうど皆さんが喉が渴いていましたので甘茶を無料で頂くことができました。

この「大善院」は、「野口の不動さん」と呼ばれ親しまれており、境内には溶岩の築山があり、その山には唐金製の不動明王を中心とした三十童子像がたちならんでいます。私は自分の誕生日に因んだ童子像を捜している間に甘茶を飲むことができました。甘茶を飲みながら探すと「一石二鳥」の考えもあつたようですが、やはり私の考えは少し甘かったようです。次に「正福寺地藏堂」に参拝しました。この建物は東京近郊には二つしかないもので、国宝に指定されており、堂内に「千体小地藏尊像」が安置されているとのことでした。又、この寺は「貞和の板碑」と云われる市の文化財があり、板碑とは中世に造られた「石造供養塔婆」の一形式と云われております。しかしここで、説明役の小父さんが小太りでおもしろおかしく説明する姿こそが人間国宝並みであった、と変に感心しました。そして、いよいよ「北山公園」

の菖蒲苑を鑑賞することになりましたが、当日は「菖蒲まつり」も開催されており、他に多くの見物客も来ておりました。「あやめ」が咲き誇っていた景観は「いずれあやめかきつばた」「立てばしゃくやく(芍薬)座ればぼたん(牡丹) 歩く姿はゆり(百合)の花」と形容されるように、美人の代名詞の如く云われている菖蒲苑の中をゆつくりと堪能しました。ところが、どんなに「あやめ」が美しく奇麗であっても、又この世にどん



北山公園の花菖蒲

なに美しい花があつても、それ以上のきれいな美しい花々を私は見たのです。それは今回、ウ

オーキングに参加された女性の方々です。昔、お嬢様でいらっしやった方々で、お顔もきれいでいらっしやいます。「心」も澄んでいて温かい方々ばかりで、このような美女たちと一緒にウオーキングできた私は、歩き疲れるなど一遍に吹っ飛んで又、目のよき保養にもなり、宇宙で一番の幸せ者かとほくそ笑んでおります。そこで今回のタイトルを「あやめより美しい花々」としたのは、正しくこのことを云いたかったのです。次に昼食前に、近くの「ふるさと歴史館」を見学しました。



東村山ふるさと歴史館

ここには、下宅部遺跡の出土品や又、古代の船を作りかけた大きな丸太も展示されておりました。

次に、昼食の「手打ちうどん」のおいしかったことは忘れられませんでした。昼食の前に「菖蒲園」でF嬢とN嬢のお二人に食事へ行く旨声をかけたところ、「私たちはあとで行く」という



武蔵野うどん

ことでしたが、何と食堂前で、もう二人は先に着いており、どうして先に着いたのかと聞くと、二人共昔の忍者のようにドロンと現われるように現代の空飛ぶドロンでやってきたと、のたま

わったのです。流石に、うまい表現だと感嘆しました。

皆さんと一緒においしい昼食を頂いたあと、近くの「徳蔵寺」に足を運びましたが、同寺には「元弘の板碑」と云って、国の重要文化財に指定されたものが保存展示されております。

いよいよウオーキングも終了となり、東村山駅で、皆さんも家路につかれました。しかし私はそのあと、ここだけの話としてその足で「東村山警察署」へ出頭しました。その訳とは、あの昼食の「手打ちうどん」があまりにもおいしかったので、私は自分の「ホットペタ」をどこかに落としてしまったのです。そこで捜索願届を出すためでした。もし参加された皆さんの中で、私の「ホットペタ」を拾われた方がいらっしやれば、そのお礼に清水の舞台から飛び降りたつもりで「手打ちうどん」を腹いっぱい奢りますので、ご連絡下さい。

扱って毎年行われている「ウオー



徳蔵寺

キング」も歩くことは健康に良いし「ウオーキングデイクショナリティ」と云われるように「生き字引」になれるかも知れません。歩くことによつて、脳が活性化し気分もリフレッシュする所以かと思えます。

最後にいつものことながら、会長始め門信徒会役員の方々の事前の準備のおかげで、楽しい「ウオーキング」が出来ましたことを深く感謝申し上げて末筆と致します。

合掌

楽しいお知らせ

□秋の研修バス旅行(日帰り)

平成六年から毎年実施している秋の研修バス旅行について今年の日帰り旅行といたします。

「親鸞聖人と箱根神社(権現) および萬福寺」



ぼこの里↓中沢酒造↓大井松田IC↓東名↓圏央道↓入間IC↓昌平寺

★申込締め切り 九月十五日(日)

大悲今号に同封の申し込み用ハガキに必要事項を記入の上お申し込み下さい

※参加申し込み受付後に「参加費用の振込用紙」を送付いたしますので、手数料ご負担の上、十月五日(土)までにお振込み下さい。

★担当者

香月(携帯090-8439-7003) 小山(自宅04-2993-3695)

電話申し込み可

☆親鸞聖人と箱根

箱根権現の管理を委任されていた聖覚は法然門下では親鸞聖人の兄弟子にあたり「唯信鈔」の著者であり、親鸞聖人が「唯信鈔文意」という注釈書を表すなど影響を受けた人物です。また覚如上人が書かれた「御伝鈔」には箱根権

現からの夢告の逸話が記されており、神官たちは親鸞聖人を手厚くお迎えしたと伝えられる。

☆箱根山萬福寺

箱根駅伝の折り返し地点にほど近い芦ノ湖畔に、慶長五年(千六百年)に創設された。明治維新の廃仏毀釈の嵐を乗り越えて、本尊阿弥陀如来像と親鸞聖人自刻の御真影並びに自筆の十字名号を守っている。

☆笈の平

性信坊との決別の地であり、石碑がある。

甘酒茶屋より百メートルほど下った所であり、親鸞聖人が東国の教化を終えて帰路の途中、それまで共にしてきた弟子性信坊との決別の地と言われ石碑や別れを惜しみつつ腰かけたとされる「別れ石」がある。聖人はここで性信坊に愛用の笈を形見として譲り、関東布教を託したと伝えられる。歌碑には「病む子をば預

けて帰る旅の空心はここに残りこそすれ」という歌が残っている。



□忘年のびん

★日時

令和元年十二月二十二日(木)

十一時三十分〜十四時三十分

★場所 昌平寺別館

★参加費 二千元

★申込締切 十一月二十日(水)

今号同封の申込用ハガキに記入の上、お申込み下さい。

皆様とともに年納めのひとときを過ごし、抽選会や余興等大いに楽しみたいと思います。奮ってご参加ください。

なお、参加費は当日受付で申し受けます

★旅行日 令和元年十月十日(木)

★集 合 昌平寺七時半

(出発八時・帰着十八時)

★参加費 八千円

★コース 圏央道↓小田原厚木

道↓箱根IC↓笈の平(甘酒

茶屋)↓箱根神社↓旅物語館

(昼食)↓萬福寺↓鈴廣かま

つれづれ

昌平寺さまの新しい顔



平成最後の月、その四月一日に昌平寺法務員として迎えられた松坂泰明さんです。

生まれも育ちも横浜という生粋の浜っこです。

浄土真宗のご家庭に生まれ、小さい頃から菩提寺の子供会で阿弥陀様のもと仏の子として素直に、み教えに耳を傾ける生活の中で過ごされました。

大学卒業後は金融機関に就職し帯広で三年、その後力ナダ・アメリカでホームステイをしながら自分探しの旅を続けて帰国。縁あるお寺で三年間の修行の後

に東京仏教学院に入学されました。学院の卒業時に築地本願寺宗務長・安永幽玄師からお声がかかり、築地本願寺に就職「首都圏開教推進部」に配属されて平成三十一年三月までのお勤めでした。銀座サロンでの法務が多かったという事ですが、銀座サロンは、築地本願寺のサテライトテンブルと呼ばれ、仏教的な考え方をベースにした講座や人生・終活を考える講座が集まった「kokoroアカデミー」

そして気になるあれこれを僧侶に相談できる「よろず僧談」が開かれています。築地では多くの僧侶や観光で見える方々との出会いがあり、とても勉強になることがあったようですが、遠山住職より半年ほど前からお誘いがあったとのこと。築地本願寺では多くの方々とお会いすることは出来ても、勉強としてのお参りをする事が出来なかつた由。

築地時代も土曜・日曜にはいろいろなお寺で法務のお手伝いをして、お参りもしておいででしたがもつともつとお参りをした

いという気持ちが高く、昌平寺で働こうと決心されたそうです。四月以降は毎日のおあさじで、正信偈のあとの繰り読みご和讃六首の中の一首の調声をして下さっています。

ご本人としては、築地本願寺では組織の重要性や観光寺院・浄土真宗の顔としての役割を学ぶことが出来、昌平寺では御門徒とのつながり・地域とのつながり等の縁をつなげる事の重要性を学ぶことが出来・・・身体が二つあつたら両方で働きたいと思う意欲あふれる気持ちを持ち続けておいでのようです。

昌平寺への就職を機に、横浜のご実家から所沢市に転居。毎日の食事で野菜不足にならぬよう、特に気にしておいでです。

スノーボード歴十五年、帯広仕込みのゴルフ等々スポーツ万能の松坂さん、通勤は125ccのオートバイ、シャンパンゴールドカラーのホンダpcxです。皆さま、どうぞよろしくお願ひ致します。

書写（写経）の会

法話会のない月の第3火曜日
1月、7月、8月、12月
午後1時～3時

講師 香月瓔石（栄爾）
テキスト 「正信偈」「重誓偈」
「讚仏偈」「御文章」

会場は和室（椅子席）です。
筆ペンを使用します。

定例法話会・茶話会

毎月第3火曜日
法話会 午後1時～2時
第二本堂
茶話会 午後2時～3時
和室（椅子席）

（講師は昌平寺僧侶、他各師）
注）1月、7月、8月、12月は休会



令和元年七月二十三日

深見けん二選

夏の月はやぶさ^{ツバ}き2のこと思ふ

浅上 勝敏

洩れ出づる夏の満月赤きこと

浅上 寿子

掛香や子の婚支度整ひて

新井 雪江

仏間にも招き入れたる夏の月

池田新八郎

湯の町の行き交ふ人や夏の月

大村 敬子

大いなる檜の鳥居月涼し

緒方 初子

齒ごたへのありし朝餉の胡瓜もみ

香月えいじ

待合せ日傘くるりと回しをり

木谷 英子

合宿の夜未来語りし夏の月

木下 尊子

幾世代続く屋敷の大夏木

久保田よしみ

表札をたしかめ日傘たたみけり

小泉 洋一

薔薇屋敷小さな窓も薔薇あふれ

芝 高子

誘はれて能登金剛の夏怒濤

須賀 敏子

船下りて次々開く日傘かな

鈴木すぐる

三富の林を照らし月涼し

鈴木 征子

雨傘を日傘に変へて帰り道

高橋 敏子

白日傘さして小さくなりし母

永井 潮

一本の檜木の高さ梅雨の月

永岡美砂子

一時は雲に隠れて月涼し

縄田をさむ

古日傘子育ての日のよみがへる

福田 敏子

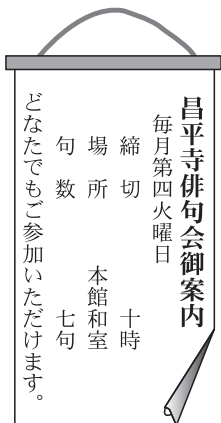
山の端に今昇らんと夏の月

馬越やす子

* * *

長梅雨の中耿耿と月上り

深見けん二



昌平寺俳句会御案内

毎月第四火曜日

締切

十時

場所

本館和室

句数

七句

どなたでもご参加いただけます。

まずお寺へ

皆様方は、御家庭の御仏壇に朝に夕にお手を合わせていらっしやいますね。

本堂は家庭の仏壇の延長線にあるものです。俱に心のよりどころとしてお気軽にお参りください。昌平寺は皆様のお寺です。お葬儀の相談、お墓、仏塔の購入、お遺骨の一時預かり、ご法要の相談、ご仏壇の購入、ご本尊入仏慶讃法要等々仏事の事なら何なりと迷わずにご相談ください。また、昌平寺では、年一度皆様方にお送りしております年間行事表、大悲の冒頭にも掲載してありますように年間を通して十回の仏行事があります。ご家族お揃いでお参りください。本願寺でも有名な先生方をお招きしての御講演、定例法話会もありますので、ご聴聞ください。更に門信徒会による茶話会、書写の会、春まつりのお茶席、年一回の昌平寺門信徒会の親睦をはかる研修旅行等の行事もあ

ります。

ご参加ください。お待ちしております。

最近、テレビ、新聞、週刊誌等で話題になっております葬儀において、納得のいかなない請求が多々発生し、トラブルとなることがしばしば見受けられるようです。

葬儀業者の当初の見積り金額、ネット等で調べた金額と大幅に請求金額が違うこともあると聞いております。

やり直しのきかない葬儀ですから各自が細かい部分まで十分に確認され納得されたうえご契約いただければと存じます。

お葬儀の契約についての苦情の増加は、葬祭業の営業に許認可制がなく新規参入がしやすいという背景があるほか、突然訪れる身内の不幸に動転して、業者のペースで契約してしまうことが多いようです。

こうしたことから、ご葬儀は出来るだけご本人が生前中に、ご家族と話し合いの上、お葬儀の予算、ご参加者予定人数・お知らせ

せする方々の住所、氏名、ご家庭の宗派、遺影のお写真、斎場等についてご家族と相談してあらかじめきめておくことご安心いただけると存じます。

お葬儀については、まず昌平寺にご相談ください。信頼できる葬祭業者をご紹介させていただきます。

昌平寺では葬祭齋場二ヶ所、法事本堂二ヶ所を備え、ロビー、駐車場も整備してご来寺のお客様にご不便のないよう努めております。

預骨室のご利用、墓地については、墓苑をお持ちでない方に、当寺では仏塔（永代供養付き合同墓所）、また残りは少なくありませんでしたが、墓地のご用意もありませんし、その間のお預かりも出来ませんのでご利用ください。

なお、昌平寺では、従来どおり門信徒の方々にご寄進をお願いすることは一切ございませんのでご安心ください。

合掌

編集後記

前号の大悲第六三号・五月一日は、奇しくも令和幕開けの令和元年五月一日と重なり永久保存版に値するものとなりました。続くこの大悲第六四号は、令和に入り最初に編集発行したものでいわば令和第一号として記念すべきものと思います。

昌平寺では、各法要行事に著名な僧侶を招き法話が行われ、多くの門信徒が聴聞に來られます。しかし、遠隔地や仕事等々の諸事情で聴聞できない方のために、門信徒会ではその内容をできる限り大悲に掲載し、法話を味わって頂くようその編集に最大限の力を注いでいます。本号では、彼岸会の田上太秀師、総会の園淵和貴師及び本堂預骨室孟蘭盆会の赤川浄友師の法話を掲載しました。

煩惱具足の吾が身、心の揺れる日々ではありますが、御仏の本願力を信じ、令月に風和らぐ令和の新时代を御仏と共に日々を生きて行きたいものです。「世の中安穩なれ」と念じつつ。

勝敏

Topics



柴山昌彦大臣を囲んで



春風亭柳橋師匠

春まつり



縄田会長挨拶



園淵和貴師法話

定期総会



いざ出発!



菖蒲苑



正福寺地藏堂

ゆつくりウォーキング北山公園



武蔵野墓苑三奉請



武蔵野墓苑遠山住職法話



本堂預骨室 赤川浄友師法話

盂蘭盆会